

シリーズ「職場での新型コロナウイルス感染症対策」

(その19) 変異株

一般的にウイルスは増殖・流行を繰り返す中で少しずつ変異していくものです。新型コロナウイルスもこれまで様々な変異株が世界各地で確認されています。変異株はリスクによって、

懸念される変異株 (Variant of Concern: VOC)

注目すべき変異株 (Variant of Interest: VOI)

監視下の変異株 (Variants under Monitoring :VUM)

に分類されています。

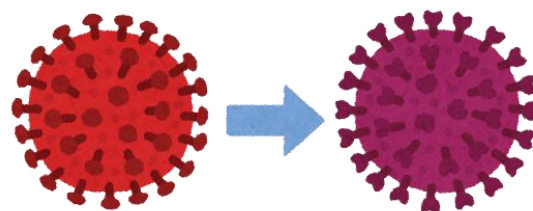
懸念される変異株 (VOC) は、ベータ株・ガンマ株・デルタ株・オミクロン株があります。

監視下の変異株 (VUM) は、アルファ株・旧カツパ株・ラムダ株・ミュー株などがあります。

日本では今まで第5波までが到来したとされていますが、

2021年の春先からの第4波はアルファ株、

2021年の夏から秋にかけての第5波はデルタ株が主役でした。



2021年11月に南アフリカで最初に検出されたオミクロン株が日本国内で市中感染して第6波を起こすことがないよう、水際対策が強化されているところです。

ですが、第6波の主役がオミクロン株ではなくデルタ株のリバウンドという可能性もあります。

各個人が行うべきことは、変異株であってもそうでなくても、これまでと同様、

●3密(密集・密接・密閉)の回避

●リスクの高い5つの場面の回避

； 飲酒を伴う懇親会等

大人数や長時間におよぶ飲食

マスクなしでの会話

狭い空間での共同生活

居場所の切り替わり

●適切なマスクの着用

●手洗いの徹底

などが有効です。

